

# 早期復旧・希望ある復興へ ～1年間の市長活動記録～



本市独自に実施した夏のリフレッシュ体験事業で市内の子どもたちが北海道夕張市などで自然体験などを楽しんできました。子どもたちから訪問先での活動報告と楽しい思い出話を聞くことができました。



福島県原子力損害対策協議会の会員 400 人が都内に集結、原子力損害賠償の完全実施に向けガンバローコールをしました。



原子力損害賠償紛争審査会で、自主避難した市民も避難せずにいる市民も区別せず賠償することを求める発言をしました。その後の審査会で、私の発言に沿った賠償指針が示されました。

## 3月11日(金曜日) ～東日本大震災発生～

市役所では、市議会 3月定例会の本会議中で、一般質問で議論が交わされている中、午後 2 時 46 分、震度 6 弱の大地震が発生、市内に大きな被害をもたらしました。

### 震災発生4分後に災害対策本部を設置



災害対策本部で対策を指示

市議会本会議を休議、午後2時50分に災害対策本部を設置し、大地震による情報収集に努めました。

この日は、徹夜で約1時間ごとに災害対策本部会議を翌日まで開催、情報把握、被害を受けた市民の避難や給水車による給水活動を迅速におこなうよう指示を続けました。

この日の夜は、地震により市役所へ避難された方々に声をかけながら、夜更けまで職員と対策を練りました。

### ラジオの災害時緊急放送で市民に毎日生の声を



F Mポコで生放送

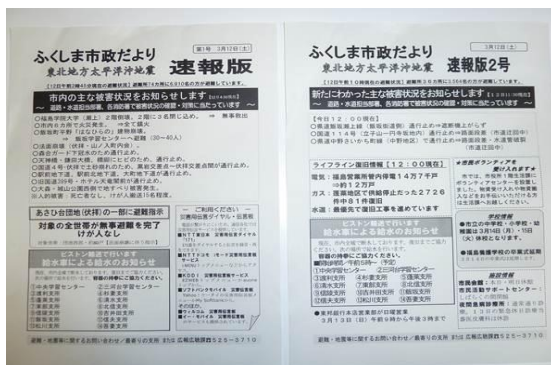
FM ラジオのコミュニティ放送「エフエム・ポコ」の通常放送を災害時の緊急放送に切り替えました。

今回のような大災害時に市内の災害情報のみを放送することを、災害に備え約束していたもので、地震発生後すぐに放送を開始しました。

この放送を通じて災害情報のほか、災害対策本部終了後に、収集した情報や災害対策の進捗状況を市長の生の声で毎日、市民の皆さんに届けました。

## 3月12日(土曜日) ～震災発生の翌日～

### 市民の皆さんに災害に関する情報をお知らせするために



災害状況やライフラインの復旧状況などの情報をお届けする「ふくしま市政だより」東北地方太平洋沖地震「速報版」を発行することとし、この日は第 1 号と第 2 号の 2 回発行しました。

市政だより速報版 1・2 号

## 3月13日(日曜日) ～震災発生の日後2日後～

### 全力でライフラインを復旧



懸命の突貫工事

水道を復旧するためには、まずは、摺上川ダムから各市町の水道局に水道水を送るための大きな管の修繕工事を進めなければなりません。

この工事をおこなうのは福島市長が企業長を務めている福島地方水道用水供給企業団です。まず企業長として早急な修繕計画を進める指揮をとりました。水道水を心待ちにしている県北の市町民のためにこの日も突貫工事を進めました。

また、東北電力さんのご尽力により、被害の復旧が進められ、家々に明かりが灯りはじめました

## 3月14日(月曜日) ～震災発生の日後3日後～

### 市議会に被害状況とその対策を報告

市議会議員の皆様には被害状況を報告するとともに、避難所を設置し物資提供をおこなっているほか、関係機関と連携し、幹線道路の復旧、ライフラインの速やかな回復を目指し、断水の早期解消に向け、職員一丸となって全力で取り組むことを報告いたしました。

市議会にて被害状況を報告



### 県知事(県災害対策本部)へ要請

大地震による万全な被害対策及び東京電力福島第一原子力発電所の事故の収束と市民に過度な不安を与えないよう迅速かつ的確な情報提供を県に要請しました。

また、この大地震による津波で被害を受けた浜通り地方の対策に原子力発電所事故の対策が加わり、県災害対策本部長として指揮を執る知事に県民の安全安心の確保を第一とした対応を求めました。

## 3月15日(火) ～震災発生の日後4日後～

### 災害時応援を各市に依頼

災害時の相互応援協定を東北の県庁所在都市6市と結んでいますが、その中で今回被害の少なかった秋田市と山形市に応援を依頼したほか、私が会長を務めるふるさとの川認定自治体連絡協議会の全国の会員首長にも応援を要望しました。

さらに、全国市長会会長の長岡市長からは、全国市長会からの物資支援を約束していただきました。このほか、被害の大きい仙台市長、いわき市長との情報交換をおこなうなど、全国の市長とのネットワークを活用し、支援の輪を広げました



水道の早期復旧に向けて対策を検討

### **水道復旧の困難解消に最善の努力**

早急な水道復旧のため、夜を徹して進めていた工事が一時ストップせざるを得ない状態に陥りました。摺上川ダムからの配水地から市内の水道管に水道水を送り込み、漏水箇所を発見し、修繕しながら各家庭へ水道水を送る作業を進めていましたが、漏水箇所にすぐには調達できない部品があったことや阿武隈川を横断する水管橋に被害があることが判明しました。

しかし1時間でも早い復旧のために、この対応策検討を最優先におこないました。

## **3月16日(水) ～震災発生の日後～**

### **災害対応の協力を求めるため医師会などを訪問**

福島市医師会の有我由紀夫会長を訪問し、この災害時においても夜間急病も含め市民が十分に医療を受けられるように体制を確保していただくとともに、避難所に避難されているかたがたの健康を守るための体制を確保していただくよう要請しました。

また、福島市歯科医師会遠藤義隆会長と面会し、同じくこの災害時においても十分な歯科医療体制の確保を要請しました。

福島地区管工事協同組合も訪問し、市民のライフライン回復のため水道復旧に全面的な協力をいただいていることにお礼を申し上げ、また、市民の皆さんが待ちわびている水道水が一刻でも早く各家庭に供給されるように、今後の協力を改めて要請しました。

### **環境放射能の数値の意味を知らせるために**

昨日の15日午後7時に市内の環境放射能の数値がこれまで最高の 23.88 マイクロシーベルトを観測しました。この数値の公表で市民の皆さんが、直ちに健康へ被害があるのではないかと不安が高まることが大変心配でした。

私は、環境放射能の数値がどんな意味を持ち、実際に健康に影響があるのかということをも市民の皆様にお伝えすることが重要なことと確信し、これからも、数値を随時公表しながら、併せて数値を正しく理解していただくよう広報に努めていくこととしました。

このため、まず、医療生協わたり病院の医師である斎藤紀(おさむ)先生に講話を依頼してまいりました。

## 3月17日(木) ～震災発生の日後6日～

### 放射線の健康への影響についてラジオで生放送



斎藤紀（おさむ）先生の講演をラジオで生放送

放射線の健康への影響が市民の皆さんの最も心配なこととなっていることから、放射線について正しい理解をしていただくために、この日午後3時からの第33回災害対策本部会議の中で、放射線医療の専門家である医療生協わたり病院の医師である斎藤紀（おさむ）先生から放射線の正しい知識について、早速講演いただきました。

この貴重な講話を市民の皆様にもお聴きいただくために、コミュニティ放送「エフエム・ポコ」で生放送しました。



開設した生活安定総合窓口

### 総合相談窓口を開設

被災を受けられた市民の皆様からの避難所に関する相談、生活物資やライフライン、さらには放射能に関する問い合わせなど、災害に関する様々な相談を受ける総合相談窓口を開設しました。



燃料不足により、ガソリンスタンドに並ぶ車の列

### 物資不足解消のために要請

被災後、ライフラインの断絶に加え、物資不足が深刻な状況になり、特にガソリンや食糧、日用品などの生活必需品を手に入れるのが大変困難な状況でした。

これらの生活物資を早く、十分に市民の皆様にいきわたるように要請活動をおこないました。

まず、絶対的なガソリン、灯油などの燃料不足に対応するために、福島県石油業協同組合福島支部を訪問し、早期に市民へ供給できるよう要望し、情報交換をしました

## 3月18日(金) ～震災発生の一週間後～

### ホットラインで対応を協議

被災後は、全国市長会の森民夫会長などと直接連絡を取り合い対応に当たっていましたが、この日は、国の緊急対策本部の鈴木総務副大臣に電話で本市の被災の現状と原発事故に対する市民の不安について説明するとともに、市民生活の回復と被災の復興に向け、国の支援を強く要望いたしました。

### 水道の復旧、この日までに約50%

昼夜を問わず復旧に取り組んでいた水道は、北部地域から日々着実に通水し、全市域で甚大な被害を受けた水道管を修繕しながら一步一步給水区域広げました。

本日までに市内約50パーセントの世帯で利用可能となりましたが、その後も全力で水道復旧に取り組みました。

## 震災発生から二週間目



連休中も災害対策本部会議

### 3月19日(土)

#### ○連日の災害対策本部会議

この日から3連休中も、この甚大な被災状況の中で、一日でも早い復興に向け、災害対応を進めるために災害対策本部会議を開催しました。災害復旧の進捗状況の把握と課題解決に向け担当職員と議論を交わし、被災された市民の顔を頭に浮かべながら、万全の体制を執るように指示しました



昼夜問わず進められる補修工事

#### ○水道の完全復旧はこの連休中が大詰め

水道水は、前日までに南部地区を中心に通水開始し、市内約80パーセントの世帯で利用が可能となりました。

しかしながら、まだ約20パーセントの水道を待っている世帯のために、この連休中を目標に完全復旧を目指しました。

**3月21日(月)**

**○ほぼ全域の世帯に水道水を通水(土砂災害のあさひ団地を除く)**

3月20日までに43回の災害対策本部会議を開き、まずは水道の復旧を第一に手掛けました。特に3市3町で構成する福島地方水道用水供給企業団の企業長として、ほぼ一週間の間、水道の復旧に没頭しました。その結果、県内ではいち早く水道水を通水させました。

**○放射線の健康リスクについて講演会を開催**

福島第一原子力発電所事故によって、市内でも通常より高い放射線の値が測定され、市民の皆さんには健康への影響を心配されている中、報道で安全性に関する耳慣れない科学的な数値が公表されています。

最も大切なのは正確に情報を理解することであることから、本日、放射線の種類や量による健康への影響をわかりやすく専門家に説明していただくため、講師に放射線健康リスクの権威である長崎大学の山下俊一先生と高村昇先生をお招きし講演会を開催しました。

会場には定員を超える約500人のかたが来場され、先生のお話に熱心に聞き入っていました。また、活発な質疑応答もあり非常に意義のある講演会となりました。

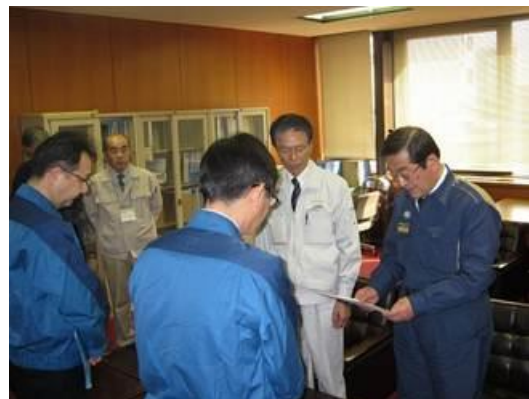


放射線について正しい情報を理解するため開催した講演会

**3月22日(火)**

**○福島第一原発の廃炉を前提とした事故の収束を要請**

福島県市長会の会長として、県市議会議長会長の太田明夫市議会議長とともに、県災害対策本部の松本友作副知事と東京電力の松井敏彦福島事務所長を訪問し緊急要請をおこないました。福島第一原発の廃炉を前提に事故の収束に全力を挙げること、また、放射能に関する情報提供を十分おこない、安全確保を図ることも要請しました。県にガソリンの安定供給も強く求めました。



太田明夫議長とともに、福島県副知事、東京電力福島事務所長に、福島第一原発の事故の収束を緊急要請

## ○関係団体へ協力を要請

福島商工会議所を訪問し、生活物資の物流及び販売の早期回復について協力、福島県建設業協会福島支部も訪問し、早期復旧に向けた全面的な協力を要請しました。

また、新ふくしま農業協同組合を訪問し、原発事故からの放射性物質が農畜産物に与える影響について、今後の課題や風評被害に関する共通理解を深め、連携強化に向けた態勢を確認しました。

**3月23日(水)**

## ○避難所で避難されている皆さんをお見舞い

蓬萊学習センターに避難されている皆さんをお見舞いしました。

この避難所に避難されている皆さんは、あさひ台団地に住まれていたかたがたで、地震による土砂崩れで住家が倒壊したかたなど、家に戻ることができない皆さんが多く避難されました。

不安でいっぱいの方に「このような悲惨な状況にも負けずにがんばってください」という気持ちを込めながら、一人ひとりをお見舞いと激励をして参りました。



避難所を訪問し、被災された皆さん一人ひとりをお見舞い

## ○仮設住宅の建設用地を提供

この大震災で住居を失った避難者のために、県が進めている仮設住宅建設に協力し、市内4箇所の用地を提供しました。この仮設住宅は、主に相双地域などからの避難者を受け入れるためのもので、住み慣れた土地を離れなければならない被災者のかたがたの気持ちを思い、できるだけ福島に残ってふるさとの再興をしてほしいとの思いで用地を提供しました

## ○ラジオ福島の生放送で声を



大地震による被害は、津波被害や原子力発電所事故による放射能被害に関する報道が多く占め、マスメディアで生の声を届けることが困難でした。災害直後からおおむね市内を放送エリアとするエフエム放送で一日に2回から3回の生放送で私の声を届けて参りましたが、この日は、ラジオ福島の電波に私の声を載せることができました。

ラジオ福島の生放送で市民に声を届けることができました



**3月24日(木)**

**○農畜産物の風評被害に対する補償を緊急要請**



福島第一原子力発電所から放出され放射性物質の汚染による出荷停止と風評被害に対する補償を国に強く働きかけるよう県市長会長として、県町村会長などとともに県の松本友作副知事に緊急要請をおこないました。

県市長会会長として農畜産物の補償を緊急要請

**○食糧の流通拠点で意見交換**

青果、水産などの生鮮食料品を取り扱う中央卸売市場に出向き、中央卸売市場協会の役員の方から、場内の被災状況や災害による流通の影響、今後の課題などのお話をお聞きし、流通の回復、地域経済の復興について意見を交わしました。

**3月25日(金)**

**○住民組織の代表者と意見交換**

住民とのパイプ役となつていただいている、市内の各地区自治振興協議会会長、各地区町内会連合会長、各方部民生委員協議会会長の皆さんにお集りいただき、被害の状況及び市の対応状況をお伝えしました。

また、災害により困っているかたがたを支援するためのご協力をお願いいたしました。



市内各地の住民組織の代表者と意見交換し、ご協力をお願いしました

**震災発生から三週間目**



**3月27日(日)**

**○避難所の状況を視察**

本市では浜通りから避難されているかたがたのために、小中学校の転入学臨時窓口を前日とこの日の2日間設置、市内各避難所に職員を派遣し、転入学手続きを受け付けました。

避難所の県立福島工業高校を訪問し、手続きをおこなった保護者からお話を伺いました。

**3月28日(月)**

**○本市支援にお礼**

この日は、群馬県みどり市の石原条市長、本市出身のプロサッカー選手(ヴィッセル神戸)の茂木弘人選手が訪れ、支援物資や義援金をいただきました。



みどり市石原条市長にお礼



茂木選手から義援金をいただきました

**3月29日(火)**



早期復旧を県に要望することを伝えました

**○国道399号早期復旧の要望を約束**

飯坂町の茂庭地区を結ぶ幹線道路で唯一の生活道路とも言える国道399号の穴原・茂庭間が被災し全面通行止めとなり、茂庭地区町内会連合会ほか、地元団体より早期復旧の要望がありました。

要望に対して、道路管理者である福島県に強く要望するとともに、復旧までは、路線バスの代替機能の確保などに努めることを伝えました



義援金について報道機関に発表

**○県市町村振興協会からの義援金を発表**

理事長を務める財団法人福島県市町村振興協会から浜通りの13市町村に対し、1市町村あたり1億円の義援金を4月上旬におくことを決定しました。

## 4月

### 4月2日(土) ○全国市長会長が本市を視察激励

森民夫全国市長会長(長岡市長)が、大震災の状況を視察するため、東北地方各都市を訪れ、この日本市を視察しました。

本市では、災害対策本部会議に出席され、激励をいただきました。

その席で、福島県市長会長として、復興に係る国への財政支援などの要望をしました



森民夫全国市長会長から激励を受ける



財政支援、原発事故による風評被害対策について要望



社民党国会調査団へ要望

### 4月6日(水)

#### ○福島みずほ社民党党首に被災状況を説明

福島みずほ社民党党首を団長とする東日本大震災・原発事故社民党国会調査団が本市を訪れました。

この席で本市の被災状況と対応経過について説明するとともに、原発事故の早期収束と事故による風評被害への対策と併せて、環境放射能モニタリング箇所を増設と線量計の大量配備について要望しました。

#### ○新入学児童をお祝い

佐原小学校の入学式に出席しました。佐原小学校では16人の児童が入学しましたが、この中には、浜通り地方から避難されている児童12人がおり、この日入学式を迎えることができました。

新入学児童のほかにも、浜通り地方からの63人の子どもさんがこの学校で勉強することになりました。



地元の児童と浜通り地方から避難している児童と一緒に迎えた、佐原小学校の入学式



**4月7日(木)**

**○風評被害に負けないよう市内農産物をPR**

福島第一原子力発電所事故による県産農産物への風評被害に負けず、農家が元気に農産物を生産することができるように、市内量販店で安全な県産農産物を消費者の皆さんにPRしました。

市内量販店で県内産農産物をPR

**4月14日(木)～15日(金)**

**○県市長会長として各市へ義援金**

福島県市長会の会長として、被災各市を訪問し、市長会からの義援金を届けました。



4月14日 立谷秀清相馬市長へ



4月14日 桜井勝延南相馬市長へ



4月15日 渡辺敬夫いわき市長へ



4月15日 橋本克也須賀川市長へ



4月15日 原正夫郡山市長へ



県市長会長として十分な支援と補償などを要望

**4月18日(月)**

**○衆議院災害対策特別委員会に要望**

衆議院災害対策特別委員会が本県を視察した際、県市長会長として出席し、福島第一原子力発電所事故の早急な収束を要請するとともに、住民に対する十分な支援と補償、そして、風評被害への対策強化を強く要請いたしました



事故の一刻も早い解決と産業への十分な補償を強く要請

**4月19日(火)**

**○東京電力へ強く要請**

東京電力(株)の鼓(つづみ)紀男副社長がこの度の原発事故の謝罪のため本市を訪れた際、今回の事故の収束に向け一刻も早い解決に取り組むこと、本市産業への影響に対する十分な対策と補償を講じることなどについて、「市民の声」として、直接、鼓副社長に強く要請しました。



営農に関して県に緊急要請

**4月21日(木)**

**○営農に関する緊急要請**

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質による土壌並びに農畜産物汚染が拡大する中、農家の皆さんが今後とも安定的に営農を継続できるように、市農業振興審議会の吾妻雄二会長、立花正清副会長とともに県に対して原発事故の早急な収束と放射能汚染についての公的な分析機関を本市に早急に設置することなどを緊急要請しました



国へ表土除去に関する基準と方針を示すことを要望

**4月21日(木)**

**○校庭、園庭の表土除去について要望**

具体的な対応方法が示されていない小・中学校の校庭などの表土除去について、早急に明確な基準と方針を示すよう求める要望書を吉田泉緊急災害対策本部福島現地連絡対策室長へ提出しました。

## 5月



高木義明文部科学大臣に要望

### 5月1日(日)

#### ○校庭の土処理方法の明確化などを要望

放射性物質を含んだ校庭の土の処理方法についての基準を明確にすることや撤去費用の支援などを求め、高木義明文部科学大臣を訪問し、直接要望書を手渡しました。

各学校への放射線量測定器の配置、教室の空調設備設置などについても要望しました。

### 5月9日(月)

#### ○復旧・復興に向けた支援を要望

地震による住家、公共施設や道路など多くの被害、原発事故に伴う放射能問題による農作物などへの風評被害などの本市の現状を国に直接訴えるため、大越明夫市議会議長とともに、三井辨雄国土交通副大臣、鹿野道彦農林水産大臣、海江田万里経済産業大臣及び民主党災害対策本部に対し、復旧・復興に向けての要望書を提出しました。



大越議長とともに、鹿野道彦農林水産大臣(左写真)、海江田万里経済産業大臣(右写真)へ要望書を提出

### 5月11日(水)

#### ○天皇、皇后両陛下をお迎え

天皇、皇后両陛下が本市を御訪問され、あづま総合体育館に避難されているかたがたを御見舞いされました。私からは、本市の被災状況のほか、原発事故による放射能による子供たちの健康への影響や果樹農家が風評被害を心配していることなどについてご説明申し上げました。





東北市長会で、特別決議の趣旨説明

**5月20日(金)**

**○東北市長会で特別決議を説明**

東北6県の75の市長で構成されている東北市長会で「福島第一原発事故に関する決議」の内容を説明し、特別決議として採択されました。

その内容は、福島第1原子力発電所事故の一刻も早い事態の収束について、風評被害に伴う損失補償についてなど7項目を国に強く要望するものです。この決議文を、国に直接提出しました。



3 カ国首脳と福島産農産物を佐藤知事と一緒に試食

**5月21日(土)**

**○3カ国首脳と本市くだものをPR**

日中韓首脳会議のため日本を訪れた中国の温家宝首相と韓国の李明博大統領と菅直人首相があづま総合運動公園体育館避難所を訪問された際に、佐藤雄平知事とともに本市産サクランボ等を食べ、福島産農産物の安全性を世界へアピールしました。



講演を前に、開催の趣旨を説明

**5月25日(水)**

**○放射能を知る講演会を開催**

放射線の工学などを専門とする石井慶造先生（東北大サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター長）による「放射性物質が環境に及ぼす影響とその対応」をテーマとした講演会を開催しました。



福島第三小学校の1年生に贈りました

**5月26日(木)**

**○子どもたちにレインコートを**

登下校中の子どもの身を雨から防ぎ、放射線の影響を軽減するため、レインコートを市内のすべての小・中学生、特別支援学校の児童生徒約26,000人に贈りました。このレインコートは、ご縁のある東京都荒川区及び、文化交流のある山口市からの支援物資としていただいた品と本市が用意したものです。



「協定書」を菅野典雄村長と締結

5月30日(月)

○飯舘村と協定を締結

この日、出張所の設置と役場業務の便宜を図ることなどを目的とした「飯舘村計画的避難区域指定に伴う避難者の支援等に関する協定書」を菅野典雄飯舘村長と取り交わしました。

市役所飯野支所内に飯舘村役場飯野出張所が設置されることになりました。

6月



JR 仙台駅で開催された「ふくしま県産品市」

6月4日(土)

○「ふくしま県産品市」を JR 仙台駅で開催

原発事故による風評被害を一扫しようと、仙台市の JR 仙台駅構内で、県内の全ての市が一堂に集い、本市も物産品の販売や観光PRをおこないました。

6月7日(火)

○各大臣などへ要望

5月20日開催の東北市長会で採択された「福島第一原発事故に関する決議」などを国に直接訴えるため、奥山恵美子仙台市長、山内隆文久慈市長、市川昭男山形市長、小林眞八戸市長とともに、民主党岡田克也幹事長、松野信夫組織委員長代理、東北議員団や、福山哲郎内閣官房副長官、松本龍環境大臣、片山善博総務大臣、松下忠洋経済産業副大臣を訪れ、復旧・復興及び原子力災害に関する要望書を提出しました。



民主党岡田克也幹事長へ要望書を提出



片山善博総務大臣へ要望書を提出





大畠章宏国土交通大臣が堀河町終末処理場を視察

### 6月18日(土曜日)

○下水道汚泥の処分方法の早期明示を  
堀河町終末処理場を訪れた大畠章宏国土交通大臣に、早期に下水道汚泥の処分方法を明示するよう要望しました。

また、国に対して放射能対策への技術支援及び財政支援も要望しました。



出席者とともにテープカット

### 6月19日(日)

#### ○観光果樹園開園式に出席

福島市観光農園協会(片平新一会長)による観光果樹園の開園式に出席しました。

今年の開園式には、末松義規(すえまつ よしのり)内閣府副大臣が出席され、真っ赤に熟したサクランボをたくさん味わっていました。

私からは、本市の農産物に対する風評被害の現状を説明するとともに、風評被害の払拭に国としても取り組むよう副大臣に直接、要望しました。

## 7月



汚泥仮置き場の現状を説明

### 7月2日(土)

#### ○細野豪志原発事故担当大臣に要望

堀河町終末処理場を視察に訪れた細野豪志原発事故担当大臣に汚泥を処分できずに仮置きしている現状を説明し、早期に処分方法を示すよう強く求めました。



### 7月9日(土)

#### ○動く広告塔で PR

本市農産物の風評被害を払拭するため、福島駅と新宿駅の間を毎日運行している高速バスの車体に福島市の果物などを大々的に PR するラッピングを施しました。

この日おこなわれた出発式



県原子力損害対策協議会で発言

**7月15日(金)**

**○県原子力損害対策協議会に出席**

被災者、関係団体、自治体が一体となって原子力損害に対して全県的な対応をおこなう「県原子力損害対策協議会」に出席しました。

東電や国への賠償請求に対し、迅速かつ確実に対応してもらうため力を合わせて取り組みます



復興への決意をアピールしました

**7月16日(土)**

**○東北六魂祭に参加**

東日本大震災の復興への決意をアピールするための「東北六魂祭」が仙台市で開催され、本市からは、「わらじまつり」が参加し、全長12メートルの大わらじと80人によるダンシングソーダナイトの踊りで祭りの会場を盛り上げました

**7月20日(水)から21日(木)**

**○トップセールスで福島市の桃をPR**

北九州市の市場、山口市の商店街、福岡市役所などを訪問し、トップセールスで福島市の桃のおいしさを多くのかたがたにアピールしてきました。



北九州市中央卸売市場のセリ台でPR



高島宗一郎福岡市長(福岡市役所で)



北橋健治北九州市長(北九州市役所で)



**7月24日(日)**

**○渡利地区で一斉除染作業**

渡利地区で住民約3,400人と行政など合わせて3,800人が一体となって、放射線量を減らすための除染作業に取り組みました。

住民の皆さんとともにあった除染作業

## 8月



民主党岡田幹事長へ要望

8月2日(火)

### ○下水道汚泥について政府へ要望

堀河町終末処理場の下水汚泥について国の早急な処理方策の提示、県北浄化センター(県管理)の下水汚泥の処分について国の責任で早急な実施を民主党岡田克也幹事長と大畠章宏国土交通大臣などへ要望しました。



長崎市の田上市長と

8月2日(火)

### ○長崎市長を訪問

古関裕而メロディーや果物を通して交流を続けている長崎市の田上市長を訪れ、東日本大震災でいただいたご支援に感謝を申し上げます。

田上市長からは、放射能問題による差別が心配であること、本市復興へ長崎市としても尽力するなどのお話をいただきました



佐藤県知事などとともに PR

8月18日(木)

### ○東京都大田市場でトップセールス

農産物の風評被害を払拭するため佐藤雄平福島県知事らと東京都の大田市場でトップセールスをおこなってきました。

福島市産の果物のおいしさと安全性を市場関係者に伝えてまいりました。



元気よく行ってらっしゃい

8月20日(土)

### ○夏のリフレッシュ体験事業が出発

原発事故による放射能の影響で屋外活動が十分にできない子どもたちに心身のリフレッシュをしていただく夏のリフレッシュ体験事業を市独自におこない、約2,000名の子どもたちに北海道、新潟県、会津地方で自然体験や交流活動などを楽しんでいただきました。



**8月25日(木)**

**○雇用の創出と安定のために**

東日本大震災と原発事故による風評被害により、さらに厳しい雇用情勢となっていますので、福島商工会議所と福島県中小企業団体中央会に対して、来春卒業する高校生の採用枠拡大と非正規労働者の正規雇用の推進などの雇用の創出と安定を求める内容の要望書を提出しました



**8月27日(土)**

**○原子力災害からの福島復興再生協議会出席**

国と地方とが初めて同じテーブルに着き、原子力災害からの再生と復興について協議する「福島復興再生協議会」の第1回会合に出席しました。

私は、地方の代表として出席し、早急な再生に向けた特別法の制定と原発事故で被災している県民への見舞金支給を求めました。

第1回目の協議会で意見を述べる

**9 月**



**9月2日(金)**

**○原子力損害賠償の完全実施へ総決起大会**

県内の市町村と業界団体などで構成される福島県原子力損害対策協議会(会長・佐藤雄平知事)の会員約400人が都内に集結して原子力損害賠償の完全実施を強く訴えました。

大会では、国は県全域を対象とした精神的苦痛への賠償も指針に盛り込むこと、東京電力は県民が被ったすべての損害を速やかに賠償することなどを求める決議を採択、ガンバローコールを力強くおこないました。

ガンバロー三唱で闘い抜くことを決意



**9月2日(金)**

**○東京愛ランドフェアに参加**

新宿駅西口広場イベントコーナーで開かれた「東京愛ランドフェア」で本市農産物と観光をPRしました。伊豆諸島などの特産品を紹介する場ですが、東京都の温かいお心遣いをいただき、本市の農産物と観光を特設ステージでPRする機会を特別にうけていただきました。

特設ステージでPRしました



野田首相はじめ各大臣との意見交換

9月8日(木)

### ○就任早々の野田首相らと意見交換

野田佳彦首相、中川正春文部科学大臣、鉢呂吉雄経済産業大臣、細野豪志環境大臣、平野達男復興対策担当大臣らとの「原子力災害に直面している市町村長との意見交換会」で、避難区域内外を問わず、精神的損害は全県民共通である実情や、原子力災害からの復興に関する法律の早期法制化を強く訴えました。



南向台地区の除染現場を視察

9月17日(土)

### ○民主党前原誠司政調会長へ申し入れ

民主党の前原誠司政調会長が本市を訪れ、表土入れ替え作業を終えた後の南向台小学校の状況確認と南向台地区内の公園等でおこなわれている除染現場を視察されました。

放射能に汚染された土壌の処分場を国が責任を持って確保すること、また、除染にかかった費用は、全額国が負担すべきことを強く申し上げました。



除染計画策定を記者発表

9月27日(火)

### ○福島市ふるさと除染計画を策定

「福島市ふるさと除染計画(第1版)」を策定し、報道機関に発表しました。

本来、除染は、東京電力や国の責任でおこなわれるべきですが、早く除染に取り組みたい市民の気持ちに応えるため市が主体となっておこないます。

この計画に沿って除染作業を本格的に実施します。



復興対策本部の吉田泉現地対策本部長へ  
抗議文を手渡し

9月29日(木)

### ○国の方針に嚴重抗議

環境省は、「避難指示区域外で追加被ばく線量が5ミリシーベルト未満の地域では、国は原則として除染の財政支援をおこなわない」との方針を示したことに対し、国に代わって除染に取り組んでいる福島市民はじめ県民の心情を全く理解してなく、到底納得できない内容であったため、早速、県民の怒りを県市長会長として復興対策本部の吉田泉現地対策本部長と原子力災害対策本部の柳澤光美現地対策本部長に対して嚴重に抗議しました。

## 10 月



全地区で市の考え方を説明

### 10月3日(月)

#### ○全18箇所の自治振興協議会に出向く

自治振興協議会が、東部・大波地区を皮切りにスタートしました。

今年は、「東日本大震災について」を統一テーマとして、復興に向けた地域の課題や提案を聴き、市の考えかたを説明しました。

11月下旬まで、全ての会場に出向きました。



特別決議を提案しました

### 10月13日(木)

#### ○東北市長会総会で特別決議を提案

山形県上山市で開催された東北市長会総会で「放射性物質を含む廃棄物の最終処分場の早急な整備を求める放射能の除染対策に関する決議」を提案し、全会一致で採択しました。



現状を訴え損害賠償を求める

### 10月13日(木)

#### ○県民が抱え続けている不安の現状を訴え

8月に設置された福島復興再生協議会の第2回協議会が、この日、本市で開催されました。

県市長会長として出席し、放射線量により設けられた避難区域、区域外を問わず、全ての県民が放射線による人体への不安などを抱え続けている現状を伝え、県民が受けている経済的、精神的損害の実態に合った損害賠償をおこなうよう強く求めました



除染作業状況を野田首相に説明

### 10月18日(火)

#### ○大波地区で除染作業を開始

福島市ふるさと除染計画に基づき放射線量が比較的高く測定された大波地区の民家で除染作業を始めました。

この日、除染作業の状況を視察に訪れた野田総理大臣に土砂などの放射性廃棄物の中間貯蔵施設の設置場所と時期を早期に明示するよう求めました。

**10月20日(木)**

**○原子力損害賠償紛争審査会ですべての市民への賠償を要求**

文部科学省で開催された原発事故に伴う損害賠償の指針を決める「原子力損害賠償紛争審査会」に出席し、私から「自主的に避難した市民への賠償と同時に、避難せずにいる市民への賠償も区別せずにおこなうよう」求めました。

これに対し、能見善久審査会長は、「避難せずに残っている住民への賠償についても同時に検討したい」と述べました。

その後12月6日に同審査会が「自主避難した人も、自主避難せずにとどまった人も賠償の対象とする」との賠償指針が決定されました。



「避難せずにとどまった人も、避難した人と同じく賠償をすべき」と主張しました



参加者全員で“長崎の鐘”を合唱し一日も早い  
震災復興を祈りました

**10月30日(日)**

**○震災復興を願う**

本市の名誉市民である故古閑裕而さんの栄誉を称える記念音楽祭を市音楽堂で開催しました。今年、「今こそ、生きる喜びを！」をサブテーマに震災復興の願いを込めて開催しました。

長崎市長からの震災復興を祈る温かいメッセージが馬場 豊子(ばば とよこ)長崎市教育長より読み上げられ、復興に取り組んでいる本市民に大きな力を届けていただきました。

**11 月**



講演で全国へ本市の現状を伝える

**11月5日(土)**

**○全国に本市の現状を伝えたい**

日本都市学会第58回大会公開シンポジウムが本市で開催され、この大会の中で私は「原子力災害に立ち向かった8カ月」と題した特別講演をおこない、原子力災害へのこれまでの取り組みと市外に避難している市民が安心して戻ってくるためにも除染と食品内の放射性物質を検査する体制づくりを進めることについてお話ししました



開所式であいさつ

### 11月14日(月)

#### ○放射線モニタリングセンターをオープン

放射性物質測定の拠点となる「放射線モニタリングセンター」を旧児童文化センターに開設しました。ゲルマニウム半導体検出器を導入し、農産物などのほか、保育所の給食食材、家庭菜園で栽培した農産物や井戸水などに含まれる放射性物質の測定をおこなうようにしました。



県原子力損害対策協議会第2回全体会議で発言

### 11月15日(火)

#### ○県内各団体の結束を固める

県や市町村、関係業界など208団体で構成する県原子力損害対策協議会の第2回全体会議で、国に対して、東京電力は被害の実態に見合った十分な損害賠償を確実におこなうよう指導すること、東京電力福島第1原発事故の賠償範囲の全体像を示した損害賠償紛争審査会の中間指針に全ての県民の精神的損害を認め賠償の対象とすることなどをさらに強く求めることを決めました。



県選出の国会議員に要望

### 11月16日(水)

#### ○復興に向けた特別法の制定を求める

東京都内でおこなわれた県選出の国会議員と県内各市の市長との意見交換会で、私からは、放射能災害で苦しんでいる市民の声を真摯に聞いて、復興に向けた特別法の制定を早急におこなうよう国会議員の方々に求めました。



米の買い上げを国に要望

### 11月21日(月)

#### ○大波地区産米の全量買い上げを国に要望

大波地区産の米から国の暫定規制値を超えるセシウムが検出され、国の指示により出荷停止となったのに対し、直ちに原子力災害現地対策本部に赴き、大波地区産米を国で全量買い上げ、出荷制限と風評被害で生じた損失補償をおこなうことなどを求めました。





J A新ふくしま吾妻組合長とともに謝罪を求める

**11月22日(火)**

**○東京電力へ謝罪を求める**

吾妻 雄二 新ふくしま農業協同組合代表理事組合長と共に、東京電力に対して、出荷制限を招いた原因者として大波地区の米生産者へ誠意を持って謝罪するよう強く求めました。

また、大波地区産米を全量買い上げ、出荷制限と風評被害で生じた損失補償をおこなうことなどを求めました。

**12 月**



おいしい福島のりんごをどうぞ

**12月5日(月)**

**○トップセールスで福島市のりんごを PR**

福島市産のりんご「サンふじ」を首都圏の消費者に PR するため、東京都の多摩地区にある市場とスーパーマーケットなどを訪問し、トップセールスで本市のりんごのおいしさを多くのかたがたにアピールしてきました。多くの皆さまに蜜入りりんごのおいしさを実感してもらいました。

**12月11日(日)**

**○除染作業に参加・除染ボランティアの皆さまにお礼**

9月に策定した除染計画に基づき、10月から始まっている大波地区の除染作業に、私もこの日参加し、表土のはぎとりなどをおこないました。また、ボランティアとして除染作業にご協力いただいた皆さまに、感謝のこたばを述べました。



ボランティアの皆さまに感謝の言葉



皆さんといっしょに除染作業



自主避難者の方々にあいさつ

**12月27日(火)**

**○避難者説明会を開催**

原発事故による放射能への不安などから、市外に避難されているかたを対象に本市が取り組んでいる放射能対策などをお知らせし、不安感を軽減していただくための説明会を山形市と米沢市で開催しました。

**1 月**



一日も早く元の生活を取り戻す決意を表明

**1月5日(木)**

**○今年の市政運営の方針などを発表**

年頭の記者会見で、放射線対策を、本市の今年の最優先課題として取り組み、市内全域の除染を着実に進めること、食品放射能簡易測定器を各支所などにも配置し、測定体制を強化することを申し上げました。

一日も早く元の生活を取り戻すため「希望ある復興」に向け、市民との協働で、速やかに、全力で取り組む決意を申し上げました。



福島復興再生協議会で発言

**1月8日(日)**

**○野田首相に県は一つであると訴える**

第3回目の「原子力からの福島復興再生協議会」で、私から野田首相ら政府関係者に対して、福島県は一つであることを強く訴え、損害賠償の対象を全県民とすることなどを求めました。



県内13市と県知事が震災復興について意見交換

**1月13日(金)**

**○知事と意見交換**

県知事へ原発事故を後世に伝えるため、震災の名称を「東日本津波原発大震災」に改める案や通常国会に提案される予定の“福島復興再生特別措置法”に法人税の全額減免を盛り込むよう財務省に強く求めることなどを提案しました。

## 「魂祭2012」共同記



東北6市の市長と共同記者会見

1月20日(金)

### ○今年も東北六魂祭に参加

東北県庁所在地6市の夏祭りを一堂に集める東北六魂祭が、今年は、5月26日と27日に盛岡市で開催することを実行委員会総会で決定しました。

原子力災害からの復興に取り組んでいる本市の市民に大きな元気を与える祭りとなるように、日本一の大わらじとダンシングソーだナイトで東北六魂祭を盛りあげます。

## 2月



佐藤滋委員長から答申を受ける

2月1日(水)

### ○福島市復興計画に答申

復興計画検討委員会の佐藤滋委員長から「福島市復興計画」に対する答申をいただきました。

いただいた答申は、希望ある復興の実現や効果的な除染の実施についての意見を含め、内容を十分尊重し、復興計画を決定しました。



心のケアを政府へ求める

2月4日(土)

### ○福島復興再生特別措置法案が示される

「第4回原子力災害からの福島復興再生協議会」が開かれ、平野達男東日本大震災復興対策担当大臣ら政府関係者から福島復興再生特別措置法案の要綱などが示されました。

また、私からは、放射能への不安などを抱えているかたがたに心のケアをおこなうよう政府へ求めたところ、細野豪志環境大臣から「環境省が責任を持って対応する」との回答がありました



農家の皆さんと意見交換

2月10日(金)

### ○「福島の農業の今とこれから」を意見交換会

果樹や野菜などの生産に取り組んでいる市内の農家のかたがた8名と「福島の農業の今とこれから」をテーマに意見交換会を開きました。

出席された農家のかたがたへ、本市が取り組んでいる農地の除染状況、本市すべての水田でコメの作付けを認めるよう農林水産省へ要望したことなどをお話しました。



東京で開催した福島市企業立地懇談会

**2月13日(月)**

**○復興に向け企業誘致**

希望ある復興に向けて重要な企業誘致のため、東京都内で、企業の皆様にお集まりいただき福島市の今の姿を伝えるとともに、本市への企業立地をアピールしました。また、皆様には「福島市の応援団」として支援をお願いしました。



日本赤十字社の本社へお礼

**2月14日(火)**

**○日本赤十字社本社へお礼**

日本赤十字社から本市へ食品内放射能測定器 77 台のご寄贈を賜ることになり、東京都内にある日本赤十字社の本社を訪れ、大塚義治副社長にお礼を申し上げました。この寄贈のおかげで県内でいち早く食品内放射能検査体制が整いました。



3月市議会定例会記者会見で発表

**2月20日(月)**

**○面的な除染、スポット除染のための予算発表**

3月1日から開会する3月市議会定例会に提出する議案等について記者会見をおこないました。

平成24年度の一般会計当初予算は、過去最高額の総額1,299億2千万円となりました。

家屋や道路、側溝の面的な除染に加えて比較的放射線量が高い地点でスポット除染をおこなうための費用408億1,500万円など予算化することを発表しました。

**3月 ～震災発生から1年～**



**3月1日(木)**

**○本市事業関連の損害賠償を請求**

東京電力に対して原発事故による原子力災害によって被った損害額約15億8千万円を請求しました。

原発事故発生から昨年12月31日までの市税減収分や子ども達の夏のリフレッシュ体験事業に要した費用など約12億3千万円が主な内容です。

### ○3月市議会定例会で所信表明



所信を表明した3月市議会定例会

3月市議会定例会が開会したこの日、平成24年を復興元年とし、原子力災害と地震災害からの力強い復興を進めるため、復興計画に基づき、「希望ある復興」を理念とし、「子どもからお年寄りまで暮らしてよかったと実感できるまち」の実現を目指すこと。さらに、市民との協働による「美しい元気な福島」の具現化にも引き続き、取り組むことを表明しました。

### 3月8日(木)

#### ○東京電力へ誠意をもった対応を要求

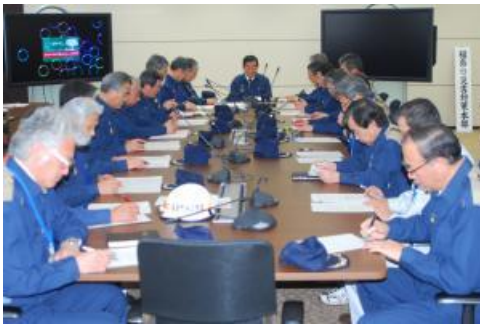


東京電力宮本史昭常務取締役へ要求書を手渡す

本市を訪れた東京電力の宮本史昭常務取締役へ、本市が原発事故による放射能問題で市民生活や経済活動に大きな悪影響が起きていること、放射能への不安から自主避難をいまだ続けているかたが大勢いることなどを重ねてお話したうえで、「事故がなければ生じなかった全ての損害を最後まで賠償すること」や「賠償以外でも復興に向けて誠意をもって支援すること」などを求める要求書を手渡しました

### 3月11日(日)

#### ○震災発生から1年・情報伝達訓練



災害対策本部・現地本部設置訓練

東日本大震災では、停電や電話回線の混雑により被害状況の把握や災害対策本部から現地本部への指示に支障をきたした教訓をふまえ、災害対策本部員と全ての支所職員、消防団の皆さんなどが参加し、災害発生直後の情報収集伝達訓練を実施しました。東日本大震災発生から1年を迎え、一步一步着実に希望ある復興へ向けた取り組みに全力で対応するよう訓示しました。

本冊子「1年間の市長活動記録」は、東日本大震災後の市長の活動の主なものを掲載したものです。  
このほかの市長の活動については、福島市のホームページの「市長の活動記録」をご覧ください。

平成24年4月 福島市政策推進部秘書課